かやぶきの里

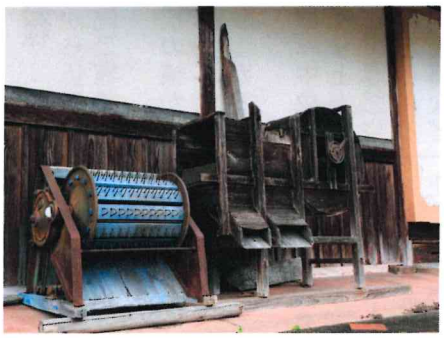
まごひち瓦版
ライフスタイルに関する情報をもっと知りたい
貴方にお届けする地元企業発行のかわら版です



先日、プライベートで京都府南丹市にある美山かやぶきの里までトライブを楽しみました。

屋根のプロ集団である孫七でも縁のない、かやぶき屋根の集落です。今では使われることのない農機具や、コケむしたかやぶき屋根など、ノスタルジックな風景を楽しんできました。

集落内にある、民俗資料館も見学しましたので、ご紹介したいと思います。



美山町内にはかやぶき屋根の家屋があちらこちらに点在していますが、それらの多くには、かやぶき屋根の上にカバー工法という手法で金属屋根が被されています。

「かやぶきの里」集落では50戸のうち39戸が、かやぶきのままで利用されており国の**重要伝統的建造物群保存地区**に指定されています。

集落内には宿泊可能なお宿が2軒、他には甘味処やカフェもあります。のどかな風景を楽しみながら集落をじっくり歩くのはほどよい散歩になるかと思います。

見学可能な場所を残さずに見ても、小さな集落ですので奈良からでしたら充分、日帰り観光が楽しめます。

春なら桜、夏はソバ畑、秋は紅葉、冬は雪を被った屋根など、写真を撮るのも楽しい美しい里には、今も住民が暮らしておられます。お店や資料館以外の敷地には踏み込まないようにする配慮も必要ですが、今は使われていない農機具がさりげなく飾られていたり、集落を流れる細い小川にサワガニが潜んでいたり、普段暮らす街との違いにあちらこちらでの道草は必須。

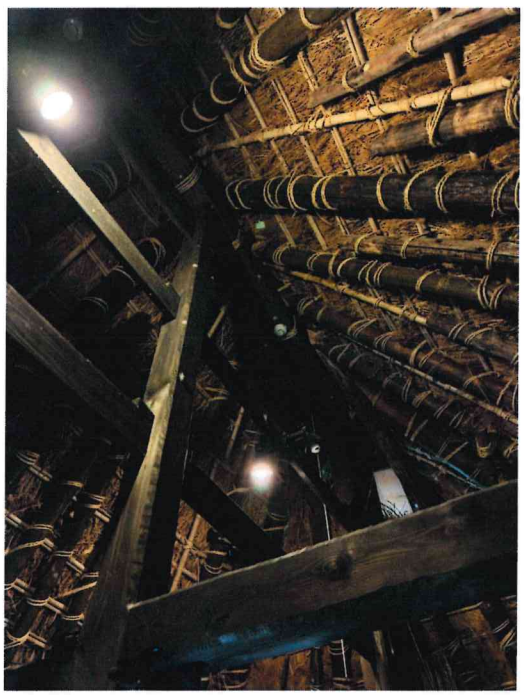
かんじき、蓑、藁草履、糸車、唐蓑（とうみ）、脱穀機 etc. が撮ってくださいと言わんばかりに置かれていたり、民家の壁に掛かっていたりします。



縁側から見る軒先

太い木が天井裏から軒にかけて通されています。水平に渡されている細い木材は竹です。

斑鳩町周辺の現場調査で見る軒先や屋根裏とはまったく異なる作りです。





屋根裏

むかしこの家に2階はなく、吹き抜け状態だったそうですが、現在この民俗資料館には2階の床が作られており資料展示室になっています。

屋根裏を見上げると太い柱が沢山見えていました。